

広報

なかもと

毎月10日発行
12/10
1987
《No.377》

雪国の知恵生きる 雪ダナづくり



- おもな内容**
- 2～5ページ 雪国新聞
 - 6ページ 除雪計画
 - 7ページ 除雪作業風景に参加
 - 8～9ページ 地域おこし大作戦
 - 10ページ 村内小中音楽祭
 - 11ページ 村民球技大会
 - 12～13ページ お知らせ
 - 14～15ページ みんなの広場
 - 16ページ お忘れなく・行事予定表

私たちの村の
()内は前月比

人口	男 3,414 (-11)
	女 3,412 (-5)
計	6,826 (-16)
世帯数	1,625 (-5)

行事予定表

12月11日～1月10日	
11(金)	高齢者講座(P9参照) 貝野地区おかあさんの勉強室 (貝野多目的センター19:30～21:30 書き付け教室) 心配ごと相談日(老人福祉センター13:00～16:00 相談員 樋口永蔵)
12(土)	クリスマスパーティー(総合センター 6:30～)
13(日)	休日救急区(津南病院 ☎65-3161)
18(金)	貝野地区おかあさんの勉強室(貝野多目的センター19:30～21:30 書き付け教室) 妊婦検診、母親学級(右参照) 心配ごと相談日(老人福祉センター13:00～16:00 相談員 樋口永蔵)
19(土)	クロスカントリースキー講習会(P9参照)
20(日)	休日救急区(庭野医院 ☎52-2711)
21(月)	貝野地区おかあさんの勉強室(貝野地区体育館 20:00～21:30 レクリエーションダンス)
22(火)	精神衛生相談日(右参照)
25(金)	心配ごと・行政相談日(老人福祉センター13:00～16:00 相談員 藤田義一、山田正平)
27(日)	休日救急区(中安病院 ☎57-3018)
28(月)	田沢地区婦人学級(総合センター 13:00～ 生け花教室)
29(火)	休日救急区(大島医院 ☎52-2957)
30(水)	休日救急区(富田医院 ☎52-3269)
31(木)	休日救急区(大坪医院 ☎57-6100)
①(金)	休日救急区(池田医院 ☎52-2581)
2(土)	休日救急区(庭野医院 ☎52-2711)
③(日)	休日救急区(上村病院 ☎63-2111)
5(火)	交通事故移動相談所(十日町市役所 10:00～15:00)
8(金)	心配ごと相談日(老人福祉センター 13:00～16:00 相談員 藤田義一)
⑩(日)	休日救急区(津南病院 ☎65-3161)

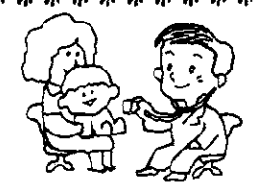
※変更する場合があります。御用の際は担当課で確認を。



昭和十六年五月二十二日、青年訓練実施十五周年記念として、旧町村、岩沢村、真人村等郡内各町村より代表一名が選抜され、天皇陛下の御親臨を拝受した時の写真です。中魚沼郡の引率の隊長が前列中央の十日町市の田村英太郎氏でした。その後皆さんは兵役につき無事復員された方々はそれぞれ町村で青年層の指導者として、あるいは職場で活躍されました。現在はおそらく現職を退かれたものと思います。わたしも貝野村当時国民学校校助教諭、中学校校助教諭、議会議員等を勤めさせていただきました皆様にお世話になりました。

③
思い出の一枚
④

みなさん お忘れなく



- 妊婦検診
12月18日 13:30～14:00／上村病院
- 母親学級
12月18日 12:45～13:00／妊娠中の栄養／上村病院
- 精神衛生相談日
12月22日 14:00～16:00／老人福祉センター

冬期間、患者輸送車運行計画表

★貝野地区	
毎週 火、木、土	
1日2往復	
1回目	8:35 役場前発 → 8:50 新屋敷着 8:50 新屋敷発 → 9:05 役場着 (各乗客毎に停車)
2回目	11:30 役場前発 → 11:45 新屋敷着 11:45 新屋敷発 → 12:00 役場着 (各乗客毎に停車)
★倉俣地区	
毎週 月、水、金	
1日2往復	
1回目	8:35 役場前発 → 9:00 重地着 9:00 重地発 → 9:25 役場着 (各乗客毎に停車)
2回目	11:40 役場前発 → 12:00 重地着 12:00 重地発 → 12:20 役場着 (各乗客毎に停車)

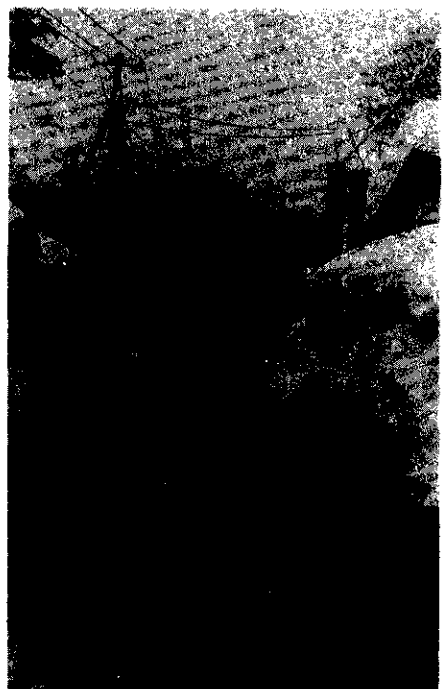
※昭和63年1月5日から運行開始 ※祝祭日は運休です。

編集後記

村づくりパワーアップ会議に参加し、おおせいの人たちに議論することの大切さを改めて感じました。それだけの仕事の分野を通じた発想はすばらしく、その発想と発想が結びついて新たな発想を生み出します。「もっともっとみんなで議論し合おう」そのためには議論慣れをしたいものです。テーブルを離れた元々の仲間といった人間関係まで高め、みんなで知恵を出し合い、小さなところから実行していきたいものです。



今月の表紙



屋根雪で狭まる駅通り

雪・ゆき特集 克雪元年

日本一の豪雪地帯。信濃川、清津川の豊富な水で作られた美しい河岸段丘の地、わたしたちの祖先は、この河川のほとりに住居を構え雪と闘いながら暮らし、わたくしども、この雪を克服し更にすばらしい雪国の創造に向けて努力を続けています。村では、今年を「克雪元年」と定め、雪対策を進めていきますので紹介します。

嘆いてばかりいられない

克雪から親雪へ

アンケート 抜粋 回答率(75.5%)

★雪は好きですか

好き 5.6%
嫌い 74.5%
どちらでもない 19.3%
無回答 0.6%

★あなたは、冬のスポーツやレクリエーションのためにどんなことを望みますか

スキー場の整備 27.1%
歩くスキーの普及 5.9%
屋内運動施設の整備充実 27.3%
雪祭等のイベント 10.8%
雪上運動会の実施 14.6%
その他 3.3%
無回答 10.4%

は、昭和九年、昭和二十年、昭和三十六年、昭和五十六年、昭和五十九年となっています。中でも、体験した人も多い昭和二十年の豪雪は、「機械除雪がまったくなかった時代ですから道路は、屋根の雪で高く積み上げ、多量の雪をもちたります。根雪期間は、百四十日余りの長期間におよび、全国屈指の豪雪地です。

役場の調べでは、過去二十年間の平均で、積雪の初日は、十二月十七日、消雪は、四月二十二日となっています。ひと冬の降雪累計は、過去八年間の平均で十八・二センチを記録しています。戦後の豪雪といわれる年

昭和四十七年に除雪ブル購入

村では、昭和四十七年に始めてブルドーザーを購入して以来、村道の除雪を積極的に進めてきました。

現在では、村道延長の二六・二キロに当たる五十四・三(消費パイプ四・五)は、機械除雪四十九・六(三)が除雪路



小型除雪機械

威力発揮

積極的な対応へ 雪処理

村では、これまで十分とはいえませんが、除雪計画を立て村民と共に雪と闘ってきました。しかし、平年を上回る豪雪になりやすと屋根雪の道路への投げ捨てなどで、車の通行が困難になるなど村民生活を脅かしています。

度などをはじめ、各種事業を検討しています。この一環として、先般みなさんのご協力を得て「雪に対するアンケート」を実施しました。その結果を紹介いたします。

このように雪との闘いを反映してか、「雪は嫌い」という人が全体の七四・五%を占めています。逆に雪国に住んでいてよい点は、「四季折々の自然が美しい」「スキーができる」「水が豊富」などを上げています。

村では、このような現状をふまえ今年を「克雪元年」と定め、雪対策条例を定めるとともに、克雪住宅建築に対する援助や共同利用の小型除雪機械への補助制

屋根雪の処理は、住宅を手で処理すると答えた人が全体の八三・六%になっています。村内で克雪住宅を取り入れている家庭は、七十八戸で、全体の六・三%となっています。克雪システムとしては、自然落雪型六十二戸、融雪型三戸、耐雪型十三戸となっています。

最近、普及著しい除雪機械は、百三十世帯に普及しており、家庭用として九十

人が四五・三%を占めています。道路への雪の投げ捨ては、「ほとんど毎日出している」と答えた人が全体の二二・八%、「時々出す」人が四五・七%となっています。

昭和62年12月10日

スキーで親子のふれあいを
近くにスキー場がオープンしたのと子どもたちが一人前に滑れるようになったので、日曜日はもっぱらスキー場通いです。普段は仕事に追われ子どもたちと接する機会が少ないので、スキーを通して親子のふれあいを深めています。5年生の長男は、土曜日の午後も祖父に連れていってもらってスキーに夢中になっています。今年こそ親子でスキー旅行をしたいと考えているこのごろです。



鈴木 登さん
(幸川)

冬は大好き
大人は、冬になると雪遊びや道づみをしないといけないので、冬はいやだなあと言う。ぼくたち子どもは、雪が降るととっても楽しいことがある。小正月は、カマクラの中で、餅を焼いて食べたり、ゲームをしたりします。また、外に出て雪合戦をしていると、月の光で雪がガラスの粉みたいにキラキラ光ってとてもきれいです。冬は、スキーやソノ遊びができて大好きです。



松沢 龍介さん
(田沢小6年)

わたしとスキー
わたしは、何かも真つ白になる冬が好きです。ノルディックスキーを始めて3年になります。4年生の時は前に進むのがやっとだったけど、練習を重ねて、去年はいろんな大会で自分なりの成績を出しました。時には苦しくて途中でやめたいと思ったことが何度もありました。でも、このたくさんの雪に負けずがんばってきました。今後も、雪を生かした運動に取り組んでいきたいです。



竹藤 さゆりさん
(倉保小6年)



一車線やつの田沢商店街

切花の抑制栽培に期待

今まで長い冬の間雪に埋もれて苦しんでばかりでしたが、何とかこの雪を利用したいと考え各方面からの協力を得て2年前から雪室をつくり球根等を貯蔵しスカシユリ、リニアトリス、スズランなどの抑制切花の試験栽培に取り組んできました。初めての事で問題点が出てきましたが、その結果を踏まえ今年取組みまああの結果が出ました。経費節減等の利点を考えると大いに期待できると思います。



山本 信宏さん
(桂)

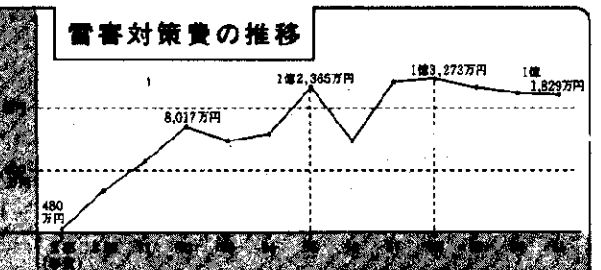
木造耐雪型を導入

屋根の雪下しから解放されたいという一念と経費の面から、木造耐雪型の家を今年新築しました。屋根が逆三角形になっているため天井が低いのが欠点ですが、これで3Mの積雪に耐えられれば何を言うこともありません。今年の冬が初めての体験ですから「意地でも屋根に上がらないぞ」と思っているのですが、そこまでわたしを含め家族が耐えられるかどうか今から楽しみでもあり心配でもあります。



関 敏栄さん
(上山)

雪害対策費の推移

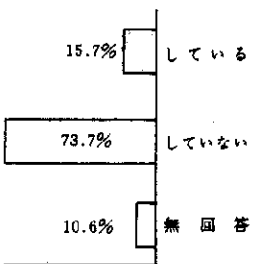


万円(三万円)が一番多く一九・四%、三万円(五万円)が一六・四%となっています。

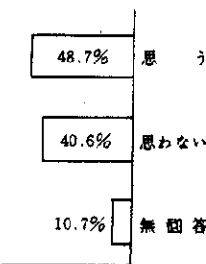
道路への雪の投げ捨ては、「ほとんど毎日出している」と答えた人が全体の二二・八%、「時々出す」人が四五・七%となっています。

昭和62年12月10日

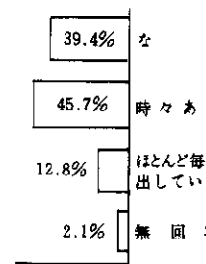
★あなたの家では小型除雪機の購入を計画していますか



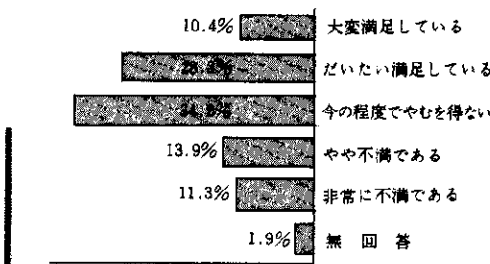
★あなたの家では将来改造により克雪屋根方式を取り入れたいと思いますか



★屋根雪及び住宅周辺の除雪した雪を、通路に出すことがありますか



★あなたが住んでいる家に通じる国道、県道、村道等の除雪状況について、どう思いますか



雪国生活をより快適に

克雪住宅の原理は、次の三つの型に区別できます。

①雪害型
当村にもよく見られますが、屋根勾配、滑りやすい屋根材を使用し落雪する。

②融雪型
大まかに分けて、電熱融雪、温風融雪、温水融雪、ヒートパイプ融雪、地下水利用方式の五種類に分けられます。当村には、融雪屋根を取り入れている家庭は三戸あります。

③耐雪型
従来耐雪型という鉄筋コンクリート造りが中心でしたが、木造でも耐雪型のもので注目を集めています。屋根を水平にするこ

小型除雪機械
村内に百三台普及
克雪住宅の研究とともに家庭用の小型除雪機械も研究改良され、村内にも百三台が普及しています。比較的敷地面積の広い当村では落した雪片付けや道つちに小型除雪機械が威力を発揮しています。

④耐雪型
従来耐雪型という鉄筋コンクリート造りが中心でしたが、木造でも耐雪型のもので注目を集めています。屋根を水平にするこ

雪を資源として
わたしたちを苦しめている雪も、見方を変えればエネルギーの塊りと見ることができ、雪が融ければ農業用水、工業用水、飲料水など水資源として、また豊富な水は、水力発電に使えます。

このように克雪住宅の研究は、五十六年前から官民一体となった研究が行われています。十一月十四、十五日長岡市で開かれた「新

雪を克服し、利雪、親雪を進めていくためには、村民みんなが、この村を愛する心をもつことではないでしょうか。大人が「雪が降ってダメだ」とばかり嘆いていては、村の将来を担う子どもたちが、この村に愛着をもつはずがありません。わたしたちは、四季折々の美しい自然の中で生活できることの価値感といったものを持つ必要があるのでは

へと一歩踏み込んだ内容になっていきます。今までの雪利用は、野菜の抑制栽培、雪中貯蔵、雪まつり、スキーなど、農業や観光に生かされてきました。今回の大綱の中では、雪を水資源として利用する雪ダムの調査研究、雪を冷熱源とする温度差発電の開発、地域冷房システムの調査研究の推進も盛り込まれ、新しい発想が出ています。

楽しむ雪へパワーアップ

当村では、雪を有効に生かすための方策を真剣に考えています。この一つは、当間山麓に計画されているスキー場です。現在、白羽毛、市之越の賛成地域の測量調査を進め、清津高原観光開発(第三セクター)では、基本計画を立て地元地権者の開発同意をとりまとめるとともに、保安林解

除等各種の事務手続きを進めています。そして、昭和六十三年の十二月には、一部オープンをした計画です。

農業面では、雪を生かした雪下ニンジンが、村内で三割作付されています。甘味を増した雪下ニンジンには、市場でも高い評価を受けています。また、雪ムロを利用した切花の抑制栽培は、リアトリス、スカシユリ、カスミ草、スズラン(鉢物)などが試験栽培されています。まだ、量産体制に

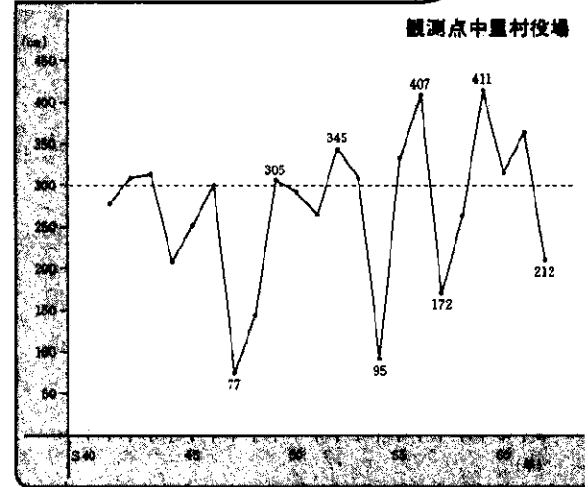
は入っていませんが、雪を生かした農業として注目されています。

親雪面では、スキーやカマクラ、雪上運動会などが上げられます。最近では、雪上運動会はもちろんのこと、鳥追いや道楽神楽の復活もあちこちの集落で行われています。

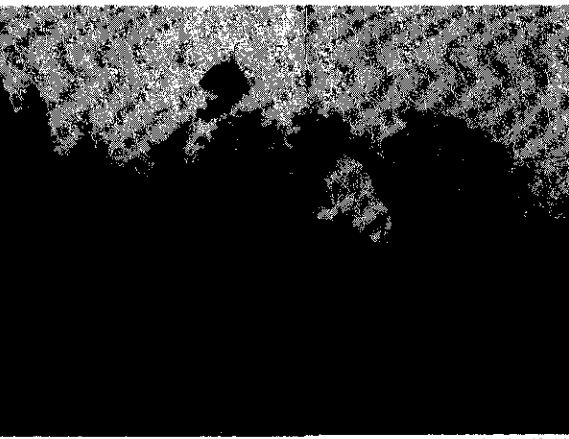
スキーは、子どもたちや青年層を中心に盛んになってきていますが、一般の人たちは、雪処理に忙がしいというのが実状です。

しかし、一昔前に比べますと、「耐える」雪から「楽しむ」雪国の生活へと大きく変わってきています。

年別最高積雪深



雪国のよい面に



雪室を利用した

切花の抑制栽培

アンケートの集計の中では、「雪を嫌い」と答えた人が、全体の七四・五％を占めています。雪に苦しめられる現状の中では、致し方のないことですが、もう少し雪に対する認識を変えていく必要があるのではないのでしょうか。確かに雪は大変ですが、火山の噴火、台風の上陸、騒音や公害に泣いている人もたくさんいます。わたしたちの地方では、雪の降ることを除けば、人命にかかわるような災害はほとんどありません。

雪を克服し、利雪、親雪を進めていくためには、村民みんなが、この村を愛する心をもつことではないでしょうか。大人が「雪が降ってダメだ」とばかり嘆いていては、村の将来を担う子どもたちが、この村に愛着をもつはずがありません。わたしたちは、四季折々の美しい自然の中で生活できることの価値感といったものを持つ必要があるのでは

ないでしょうか。商工会の講演にこられた松沢友三氏は、「必ず村や町の時代がやってくる」と話していました。

今、わたしたちに求められていることは、この村の美しい自然、我慢強くしかも思いやりのある人間性といったよい面を向け、それらを生かした地域づくりを進めていくことだと思います。

雪対策を強力に

役場では、雪対策を進めるため、各課から職員が出て広い観点から検討しています。

雪対策条例は、今年度中に制定されます。条例の内容は、大きく分けて雪の克服、利雪・親雪、雪害対策の三つになります。この条例を基に各種諸制度が作られます。

その一つとして、雪処理要綱(雪処理の方法等)も、

六十年代は小雪



村山 一 さん(小出)

清津峡温泉で旅館を営む村山さんは、昭和五十二年から東京電力の委託を受けて、清津川の水位調査と天

候、気温、降積雪の観測を続けています。

村山さんは、自分の記録や過去の文献を基に、昭和六十年代は、「小雪」と予想しています。「昔から冬至(十二月二十日ころ)までに一堀り堀れば十堀り降るといわれています。庚申講の記録をたどってみても、戦後の大雪の前年の暮れにはたくさん雪が降っているんですよ。」と話します。

事実、きちんと整理された野帳の記録を見ますと過去十年間の中で、当ではまらないのは、昭和五十五年だけ。しかし、昭和五十五年は、降雪は早く訪ずれています。

雪の降り方にも十年単位の周期があるのではないかと村山さんは「昭和の大雪は、十年代と五十年代だった。昭和六十年代は、小雪だった昭和二十年代と同じくなるのではないか、これが当ればいいですね」と笑顔で話してくれました。

克雪はふるさとを愛する心から

村では、雪対策を積極的に進めていきますが、みなさんからも雪と積極的に取り組んでいただきたいと思います。「わが家の克雪」から始め、隣近所、集落へとその輪を広げていきたいと思います。

克雪・利雪・親雪は、ふるさとを愛することから始まります。



雪を楽しむ雪上運動会

地元の雪博士



おにぎり大繁盛

手づくり製品に自信深める

新座市農業祭へ参加

十一月二十二日、埼玉県新座市の農業祭に、村内から農業青年グループ、婦人グループ、特産品販売業者など一行五十二人が参加しました。

これは、昭和六十一年三月から進めているスポーツ少年団の交流がきっかけとなって実現したものです。

農業祭に参加するため先発隊十二人は、二十一日の午後一時三十分、トラックに特産品を満載して新座市へ直行。翌日五時起きで会場を準備。一方、後発隊は二十二日、朝五時役場を出発、新座市に八時に到着。そして、先発隊と合流。

朝九時、開場とともに飛行機が上空を飛び、「中里村物産展」をPR。

お客さんは、午前十一時ころをピー



モチつきで粘りのある交流を

場。約五千人が来場。当村から持ち込んだ特産物は、会場の好位置を提供され、終日たくさんの人出でにぎわいました。都市住民特産品意向調査に協力してくれた人々には、コシヒカリ米（二合詰め）をプレゼントしました。また、コシヒカリ米のおにぎりのサービスコーナーには、長い行列ができご飯を炊くのが間に合わないほど好評でした。つきあてのモチ（二百円）も飛ぶように売れ、裏方さんは、ご飯ふかしとモチつきに汗みどろになりました。

会場には、中里村出身者や県内出身者が詰めかけ、

今回の交流を通じ参加者たちは「勉強になったし、ちよっぴり自信もつきました」と初めての体験に満足していました。

村では、来年も農業祭へ参加するとともに、新座市とのより深い交流を進めていく方針です。

参加されたみなさん本当にご苦労様でした。

「しょうゆの実懐かしい」「方言を聞くと故郷を思い出すわ」といった会話が交され、温かい雰囲気になっていました。中には「事前に知らせてくれれば、お手伝いしたのに」と言ってくれた人もいて、参加者たちを感激させました。

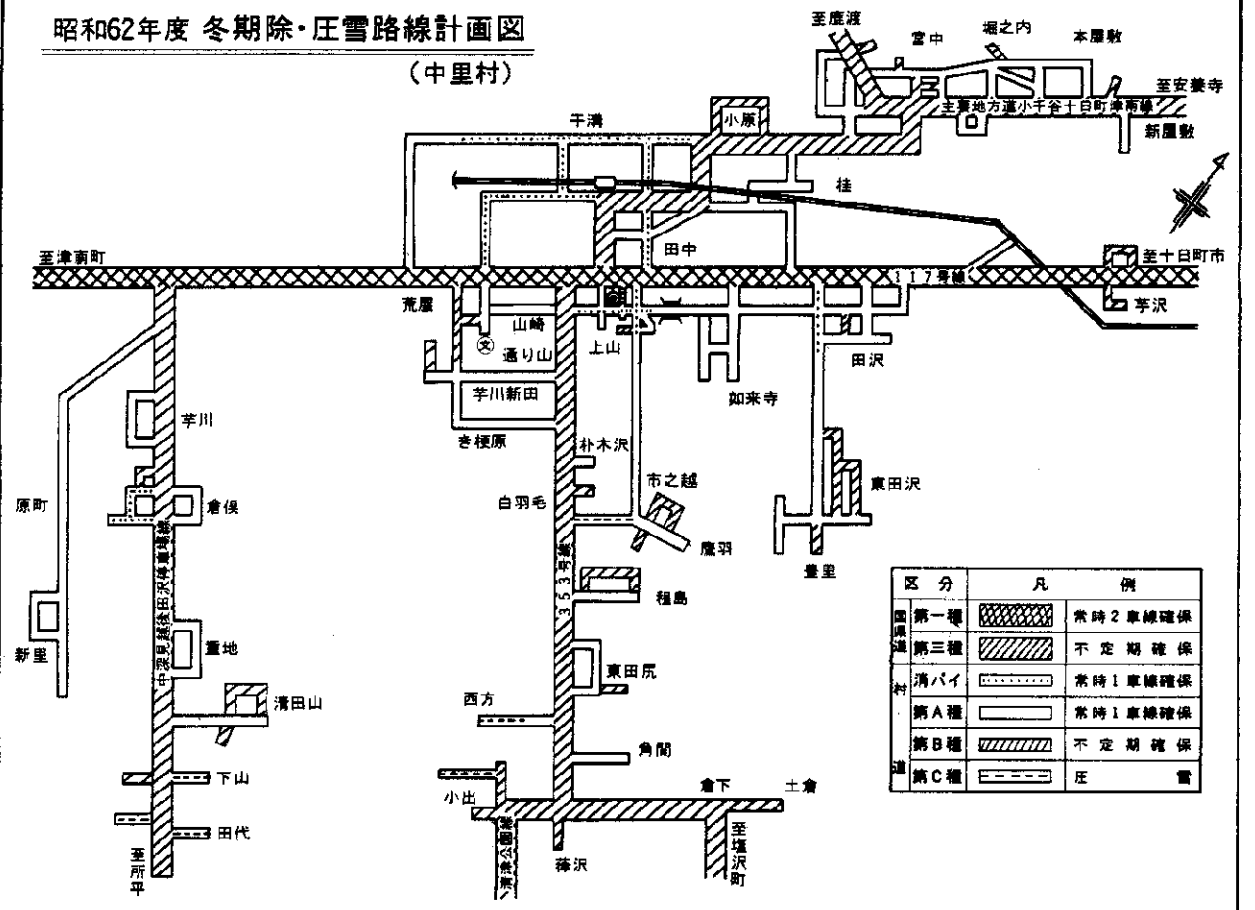
一方、村長以下村の関係者七人は、新座市役所を表敬訪問し、大歓迎を受けました。



ふるさとの味覚大いにPR

昭和62年度 冬期除・圧雪路線計画図

(中里村)



思いやりの心を

渡辺 虎雄さん
(田中)
(十日町タクシー勤務)

雪の降る日は、道路状況が刻々と変化し、お客様の予約時間に遅れることがあります。こんなときは困りますね。また、降雪が続き、道路が水がぬれることがあります。それと交差点の中に多量の雪が溜まると、車がスムーズに流れなくなり、大変危険です。雪が降りつづくと雪処理が大変ですが、もう少しお互いに思いやりの心をもちたいものです。

克雪は

譲り合いの精神で

雪国の生活をより快適なものにするため、村では全力を上げて道路の除雪対策を進めています。

車なくして成り立たない今日の社会では、交通のストップは、村民生活のあらゆる面に支障をきたします。この村民の生命線ともいえる道路確保を進めていくためには、みなさんの協力がどうしても必要です。本格

道路を雪捨て場にしないで

冬場、村内を回って見ますと、随分勝手な情景を目にします。道路を雪捨て場と間違えている人、下流の水につきも考えないで川に雪を入れている人、みなさん心当りがありませんか。屋根

雪を飛ばす頼もしいヤツ

が道路に面している家庭では、ある程度落とすのはやむをえません。下には一人いて交通の支障にならないような心くばりをもってほしいものです。

困ります

違法駐車

午前三時起きで除雪を開始する運転手さんの最大の敵は違法駐車です。たった一台の違法駐車車の車で除雪が遅ければ、多くの人たちに迷惑がかかります。道路への違法駐車は、絶対にやめましょう。

思いやりのある運転を

雪水のはねあげ防止

「バンヤ」心ない運転手によって、多くの人たちが雪水をかけられます。自分よりも大きなランドセルを背負った子どもがいても、平気で飛ばしていき。思わず「バカヤロー」と叫びたくなります。歩行者がいいたらゆっくり走り抜ける心の温かい運転手になりましょう。

雪国の生活を守るため、お互いに我慢するところは我慢し、譲り合いの精神をもちましょう。

JR

大量の水を運ぶ水路トンネルを視察

昭和六十一年八月から、JR東日本旅客線信濃川工事事務所が進めている、信濃川水力発電再開工事の宮中取水口の建設現場を、中魚沼郡町村会主催で視察が行われました。

取水口の工事は、最後の仕上げ段階に入っており、熊本所長の話しにより、三月ごろ完成する予定です。

同時に魚道の改修工事も急ピッチで行われていました。今度の魚道は、昔、木流しで使われていた水路を含め、大型魚道と小型魚道が作られます。熊本所長の話しによれば、大型魚道に三・七メートル、小型魚道に〇・三メートル、



巨大なトンネルで水を運ぶ



魚道の改修進む

取水口から小千谷山本山の調整池に通じる水路トンネルは、国道のトンネルを思わせる巨大なものでした。JR東日本は、この地方のかけがえのない水を奪うことの重要性を深く認識され、誠意をもった姿勢を示してほしいものです。

水を流し、魚の呼び水として四トンに魚道から河川に向って放流する予定になっています。

水の量は、取水口の水の高さに応じ、開閉する水門となり、湯水期を想定し七、八流れるように設計され、流量計も設置されるということです。

地域おこしへパワーアップ

地域活性化への道



「行動に移そう」と熱弁をふるう安間氏

村では、今年産果のふるさと産果おこし事業を取り入れ、地産産物フェアなど各種の事業に取り組んでいます。その事業の一環として、十二月一日、ヤスママ「地域活性化戦略NOW」と題した講演会が、老人福祉センターで行われました。安間氏は、現在、村の委託を受け村の総合開発計画のコンサルを担当しています。午後七時からは「パワーアップ会議」が林屋旅館で行われましたのでその内容を紹介します。



自由に発言し合う参加者たち

ため子どものために何かやることが実になる。

中里村には、コシヒカリ食品、雄大な自然、きれいな水がある。こうした資源を一つ一つ掘り起こしていくことが大切である。村づくりを進めていくためには経済力をつけていかなければならない。

農業面を考えてみますと作ることだけに力を入れていく。もつと消費者を見ながら付加価値のある物を作らなければならぬ。これからは、バイオテクは避けて通れない課題である。全国的に特産品づくりが盛んである。

講演会 レポート

山梨県の清里は、年間二百万人の若者でにぎわっている。しかし、昭和五十九年ころからお客が落ち込んできている。このように時代は移り変わっていくんだという認識をしてほしい。村づくりは、始めがあつて終りが無い。長い尺度で見ていく必要がある。愛知県の足助町では、昭和十二年に神社が荒れているというので紅葉を植えたことから紅葉で有名になった。孫の

るが本当に商品化されたものは少ない。食べてうまいことは当然ですが、包装紙も研究する必要がある。先端企業の中でもよい自然環境を求めて都心を離れるケースも出てくる。企業誘致は、あきらめず根気強く進めていく必要がある。また、内発型の工業を育てる必要がある。せつかくの公共事業も大手の下請しかできない。地元建設会社が、雪国の土木技術のノウハウを高めていくことが大切である。

商業は街の顔である。商店がこの村から無くなれば、若い人たちは、仕事は仕事、遊びは遊びというように余暇生活に重点を置いていく。閑東周辺でリゾートの適地は、当地を含めた上越国境一帯と山梨県の秩父茨城県霞が浦の三つしか組んでほしい。

パワーアップ会議 レポート

「今わたしたち一人一人に何が出来るか」こんな呼びかけに三十人の仲間が集まり、第一回村づくりパワーアップ会議が、林屋旅館で開かれました。ゲストスピーチを講演会の講師、安間一勇氏から受けた後、参加した人たちは肩書をはずし、深夜に至るまで熱心な討議が行われました。この中で出された主要な意見をまとめてみました。

★議論の場
だれもが村をもつと活性化したいと思っているが、中々それを実行に移せない。何をやるにも多くの仲間が必要。そうした仲間をつくる

が本当に商品化されたものは少ない。食べてうまいことは当然ですが、包装紙も研究する必要がある。先端企業の中でもよい自然環境を求めて都心を離れるケースも出てくる。企業誘致は、あきらめず根気強く進めていく必要がある。また、内発型の工業を育てる必要がある。せつかくの公共事業も大手の下請しかできない。地元建設会社が、雪国の土木技術のノウハウを高めていくことが大切である。

り、お互いの考えていることを知るためには、もつとも議論と交流が必要だ。そのためには、こういう企画がとて大切。
★勇気をもって行動を
こうした会議に出ることも、ましてや具体的に行動を起すためにも勇気が必要。他人の声を萎縮してしまつては何もできない。村をよくしたいという皆の心は同じはず。しり切れトンボになることなく続けていこう。
★リゾートと村の明日
村の将来的なイメージがほしい。それがないと自分はどう頑張つたらよいのか分からなくなってしまう。リゾートを考えると、まず、自分たちの暮らしがあつて、そこに都市機能をもつたリゾートがあるという

ようになってほしい。そのために、自分たちの地域の暮らしと文化をもつと掘り下げてみる必要がある。今のままでは生活基盤が弱い村づくりには基本理念が必要という。基本理念って何だろう。大会社の開発は、地域住民と共存できるのだろうか。リゾート議論は、今が一番大切なとき。
★わたしたちと行政
行政は、わたしたちにもつと細かい手を差しのべてほしい。でも、最初から行政に甘えては行動を起せない。行政に積極的におつかつて行く気持も大切。
この他にも、村づくりへの具体的な方策がたくさん出されました。人間の知恵って本当にすばらしいものです。次回はあるかも。

12峠冬場も通行可能に

R353
葎沢、塩沢

今冬から国道三五三号線葎沢塩沢間が、冬期でも通行可能になります。

昭和五十九年の豪雪を契機に、無雪化の計画が立てられ、以来四年がかりで防雪工事が、十日町、六日町土木事務所所轄で進められてきました。

この工事が完了し、十一月三十日、ドライブインおもや(葎沢)駐車場で竣工式が行われました。

が投入され、雪崩防止柵、スノーシェード、道路拡幅が行われました。今後も三、四年かけて一部道路の拡幅を進めていきます。

この区間の冬期無雪化は首都圏を結ぶ最短コースとして、当村ばかりでなく津南町、東頸城、長野県北部の人たちの悲願でした。今までは、冬になりますと十日町の八箇時回りを余儀なくされ、倍近い時間が必要でした。この無雪化は、住民の足の確保ばかりでなく冬の観光客へ大きななすみとなります。

当村でも清津峡の通年観光やスキー場開発への大きなメリットとなります。



冬期間の安全を願う

雪崩防止柵完成で大きな安心

清津峡温泉
雪崩防止

五人の尊い生命を奪った清津峡温泉雪崩災害発生以来、早三年十ヶ月が経過いたしました。二度とこのような災害が発生しないように、昭和五十九年七月から四年がかりで雪崩防止工事が、六日町営林署の管轄で進められてきました。

この工事が完了し、十二月三日、清津館で雪崩防止工事の竣工式が行われました。

式典の中で上村村長は「前橋営林局、新潟県をはじめとする多くのみなさんのおかげでつばな雪崩防止柵が完成したことにお礼を申し上げるとともに、亡く



竣工を祝い安全を祈る

何とかしたい という気持を

藤田 求さん(干溝)



中里村は過疎化が進み、嫁娶不足、就労の場がない、農業は前途が厳しい等々危機に瀕しています。一方でこの村を愛し希望をもてる村づくりを願っている人たちがたくさんいると感じました。講演でもパワーアップ会議でも「もつともつと議論をし合おう」「みんなで知恵を出し合おう」「手をとりあつて協力していこう」という意見が相次いで出されました。今後こうした場をつくり、埋もれている宝の山をわたしたち自身で掘り当て更に磨き、子どもたちに残したいと切に思います。何としてもこの村を「住みにくい」「住みたくない村」にしてはなりません。何をどうしたらいいのかすぐには分かりませんが、「何とかしたい」という気持さえあれば、いろんなチャンスやきっかけがやってくると思います。



雪の重圧に耐える防止柵



スパイクそして強力なブロック

スポーツの技を競う

村民 球 技 道 大 会

十一月二十二日、中里中学校体育館と田沢地区体育館で、村民バレーボール大会が開かれました。

今年は十四チーム、総勢百四十人の参加者があり、熱戦が繰り広げられ、貝野青年会が見事優勝しました。

十一月二十九日には、村民バスケットボール大会、村民卓球大会、村民剣道大会が行われました。

バスケットボール大会は、中里中学校体育館で行われ、男子六チーム、女子五チームの参加がありました。今年是一般の参加が男女合わせて四チームと少なかったのですが、その分中学生の参加が多く、大会を盛り上げてくれました。

卓球大会は田沢地区体育館で行われ、約六十人が参加しました。また、津南中学校と中里中学校の女子の親善試合も行われ、レベルアップを図ることができました。

田沢小学校体育館では剣道大会が行われ、田沢剣道スポーツ少年団の四十五人が、練習の成果を競い合いました。その後、田沢剣道スポーツ少年団結成二十周年記念式典が行われました。(P14関連記事)

- 〈成績〉
- ★バレーボール大会
- 一位 貝野青年会
- 二位 スターウォーズ
- 三位 バイキッズ
- 〃 ケンパラス
- ★バスケットボール大会
- 〈男子〉
- 一位 タイセイズ
- 二位 フィンガー5
- 三位 体協チーム
- 〈女子〉
- 一位 NBC(中里中三年)
- 二位 体協チーム
- 三位 ラッキーストライク
- ★卓球大会
- 〈中学生男子〉
- 一位 佐藤一輝(中里中)
- 二位 吉楽安幸(中里中)
- 三位 柳 健一(中里中)
- 〈一般〉
- 一位 村山端佐江(田沢)
- 二位 阿部陽一(貝野小教員)
- 三位 鈴木和人(中里中三年)
- ★中学校親善卓球大会
- 〈女子〉
- 一位 石沢陽子(津南中)

シルクフラワーづくりに挑戦

市ノ越の富井ミヨノさんと富井悦子さんは、蚕の繭を利用したシルクフラワーづくりに挑戦しています。シルクフラワーは、繭を4枚位に薄くはいて花びらをつくり、手芸店から買ってきた葉や茎と組み合わせ完成させます。スイセン、スズラン、ツバキ、スミレなどの花束は、どれもすばらしい出来栄で感心させられました。

ミヨノさんは「実物と同じ感じを出すため本を買ったり、野外で咲いている草花を観察しながら試作しています」と研究に余念がありません。

完成するのがとても楽しみと話す二人は「趣味と実益を兼ねられれば」と来春から清津峡の土産に加えてもらえるよう働きかけたいと話してくれました。



市之越の特産品まで高めたいと頑張る



出発式で交通安全の誓い新たに

パレードは、白バイ二台を先頭に八台の車に関係者四十人が分乗し、村内をパレードしました。

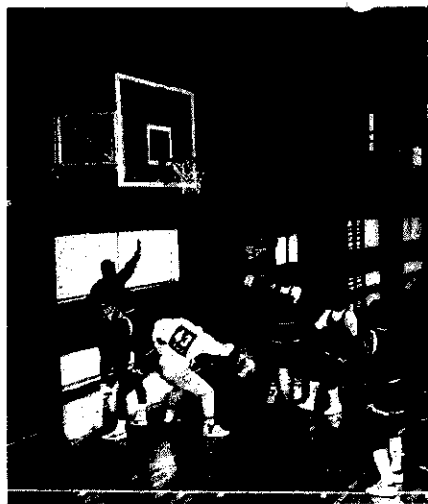
村では、交通死亡事故ゼロ千五百日を達成し、十一月十七日記念パレードを実施しました。



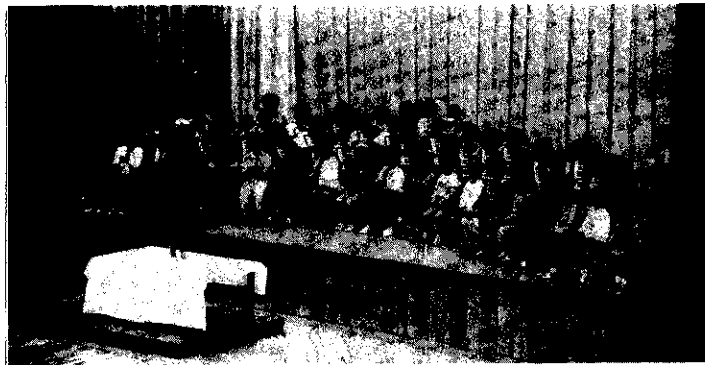
交通安全へ誓い新たに

記念パレードの出席式で上村村長は「交通死亡事故が相次ぐ中で、交通死亡事故ゼロ千五百日の金字塔を建てることのできた。今後とも交通安全対策を強力に進めたい」と述べました。

つづいて、早朝に夜にと交通事故防止に尽力されている中里村交通安全協会と中里村交通指導隊に、十日町警察署から感謝状が贈られ、十日町地区交通安全協会から記念品が贈られました。



ナイスシュート 若さぶつかり合う



一生懸命やったよ(田沢小)

十一月十三日、中里中学校体育館で第二回村内小学校音楽発表会が開かれました。

シーンと静まり返った体育館の中で、リコーダーの美しい音色が響きます。各学校ともこの発表会のために練習を重ねてきただけに、どの曲も聞きごたえがありました。

一生懸命タクトを振る先生を見つめる真剣な子どもたちの目、ビーンと張り詰めた緊張感が聴衆にも伝わってきます。

曲に合せ身体を左右に動かしながらの熱演に、会場しらす大きな拍手が送られました。演奏を無事終えて緊張がゆるんだ表情が、とても



リコーダーの美しい音色(高道山小)



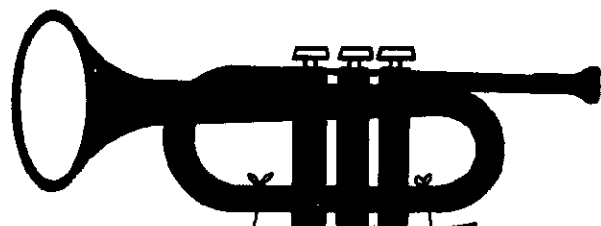
いろいろなりコーダー演奏(貝野小)

も子どもらしく感じました。最後に関東吹奏楽コンクールで見事銀賞を射止めた中里中学校の吹奏楽部の演奏が行われました。子どもたちのなじみ深いアニメメロディーの後、「スクーター」が演奏され、全国トップレベルの洗練された演奏は、聴衆に深い感動を与えてくれました。

鈴木教育委員長は「音楽

は、人間にとって最高のものである。熱演にかたずをのんで聞かせてもらった。実にすばらしい出来栄であった」と感想を述べられました。

こうした音楽発表会の開催は、子どもたちの音楽への興味を高めるとともに、音楽のレベルアップに大きな布石になるのではないのでしょうか。



澄みわたる音楽
村内小中音楽発表会



聴衆を感動させた中里中吹奏楽部

生れ変わった銅像

田沢小学校の改築とともに、新しい二宮金次郎の銅像が、田中の滝沢勝茂さん(富山県高岡市在住)から寄贈されました。この二宮金次郎の銅像は、今回で3代目になります。初代の銅像は、戦争で亡くなった滝沢さんの叔父さんの供養と田沢小学校児童の学力の向上を願って、滝沢さんの父親と祖母が昭和16年に寄贈したものです。その銅像は、太平洋戦争の際兵器を作るため軍隊に供出されました。2代目は、コンクリート製で、昭和27年に建てられました。

今回の改築で銅像を移動することになりましたが、傷みが激しく移動が不可能なため滝沢さんに相談したところ、心よく3代目の立派な銅像を寄贈していただきました。



祝

宮中の吉楽友吉さん
勲七等瑞宝章に輝く



吉 楽 友 吉 さん(宮中)

宮中の吉楽友吉さんは、先きの叙勲で「勲七等瑞宝章」を受けられました。

吉楽さんは、昭和二十四年から昭和五十五年退職まで、十日町土木事務所の道路補修員として活躍され、さらに嘱託として今年の三月まで、三十七年七月と長い長い間、道路の安全確保に尽力されました。

「昭和二十年代は、ほとんどが砂利道で、川原でトラックに玉砂利を積んでは道路の穴の補修に明け暮れました。昭和五十年代に入ると砂利道は少なくなり、したが、除雪で舗装に穴が空いたので、それに随分神経を使いました。また、桟橋が吊り橋だったところ、つりゲタのボートが折れていて冷汗をかいたこともありまして」と数々の思い出を語ってくれました。吉楽さんは「ただ一生懸命にやっていたことが認められてとてもうれしい」と笑顔で話してくれました。

1047